

# 第1号議案 令和7年度事業報告及び活動決算の件

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

## 【令和7年度を振り返って】

令和7年度を振り返ると、地域のつながりづくり、市民活動団体の支援、多様な主体との連携づくり、そして市民の皆さまが安心して活動できる環境整備に、協議会として全力で取り組んだ一年でした。

まず、市民活動支援センターでは、会議室やフリースペースの利用が堅調に推移し、特に夜間利用が大きく伸びました。利用者満足度は97.9%、スタッフ対応への評価は99.6%と、非常に高い評価をいただきました。これは、日々現場で丁寧な対応を続けているスタッフの努力の賜物です。昨年度は引き続き指定管理者に選定され、今年度からまた支援センターを管理運営いたします。

また、はちおうじNPOフェスティバルや地域連携交流会、1日出張など、地域に出向き、団体や住民の皆さまと直接つながる取り組みを強化しました。特に1日出張では、地域ごとに異なる課題が明確になり、今後の支援の方向性を考えるうえで大きな示唆を得ることができました。さらに、協創の道プロジェクトやNPO八王子会議では、団体同士が互いの強みを生かし合う「協創」の考え方が広がり、連携の芽がいくつも生まれました。市民活動の可能性が、確実に広がっていることを実感しています。

一方で、解決すべき課題も複雑化、多様化しています。これらに対し、協議会としてどのように寄り添い、支え、つないでいくのかが、次年度以降の重要なテーマとなります。

## 【1】八王子市民活動協議会の運営組織

### 1. 理事会

#### ①定例理事会：原則毎月第4火曜日午後5時から開催

協議会の運営についての基本的事項、重要事項の検討や報告を行いました。

令和7年度は定例理事会を12回開催しました。

#### ②特別な審議事項や理事から開催要請があった場合に臨時理事会を開催します。

7年度は1回開催しました。

### 2. 三役会

理事長、副理事長、事務局長、各事業部会担当長、支援センター長、その他都度理事長が議題検討に必要な人を指名して行います。

令和7年度は、原則毎月第3火曜日に、主に理事長、副理事長、事務局長で理事会付託の議案について討議することが主でした。

### 3. 企画運営会議の開催

令和7年度は四半期に一度実施されるモニタリングの結果に基づき、主に三役で行いました。2～3月には令和8年度市民活動支援センターの次年度計画について意見を出し合いました。

### 4. 情報セキュリティ委員会

センター、協議会の双方の情報セキュリティ強化のためにそれぞれ組織しています。6年度はセンターの情報セキュリティマニュアルの見直しを受けて、協議会版も作成し、文書管理規定についても見直しました。

## 【2】支援センター事業

### 1. 市民活動の促進のための施設の提供に関する事業

#### (1) 施設利用状況

上段：令和7年度、下段：令和6年度

交流室 (回)	活性化室 (回)	フリー スペース (人)	コピー機 (件)	印刷機 (件)	面談 相談 (人)	来所他 (人)	電話 相談 (件)	電話他 (件)	メール 相談 (通)
814	858	1626	256	77	76	346	21	732	0
812	823	2004	406	57	122	275	43	1093	0

市民活動支援センターは、夜間の利用率が低いいため、夜間利用を増やすことをここ数年目標としてきました。毎年少しずつ増えていきましたが、令和7年度は活性化スペースが17-19枠で49.6%、19-21枠で41.3%、交流スペースが17-19枠で33.1%、19-21枠で31.0%と前年度より大きく増加しました。

#### 会議室利用状況（年間）

#### 下段：会議室利用状況（曜日別）

月	コピー機	印刷機	面談 相談	来所 他	フリー スペース	電話 相談	電話 他	メール 相談	月間総 日数 (A)	利用可 能 会議室 ごま数 (B)	セン ター 無利用 日数 (D)	実利用 日数 (E=A-D)	利用 日数率 (E/A)	全体（交流と活性化の合計）				交流スペース				活性化スペース			
														実利用 会議室 ごま数 (C)	会議室 利用率 (C/B)	利用 団体数	利用者 数	実利用 会議室 ごま数 (C1)	会議室 利用率 (C1/B)	利用 団体数	利用者 数	実利用 会議室 ごま数 (C2)	会議室 利用率 (C2/B)	利用 団体数	利用者 数
4月度	3	5	4	21	191	0	77	0	26	240	0	26	100.0%	138	57.5%	74	1055	71	59.2%	42	562	67	55.8%	32	493
5月度	13	7	6	14	150	2	44	0	27	242	1	26	96.3%	134	55.4%	73	1066	65	53.7%	37	617	69	57.0%	36	449
6月度	21	2	5	13	146	1	94	0	25	230	0	25	100.0%	137	59.6%	71	1075	65	56.5%	35	534	72	62.6%	36	541
7月度	12	8	7	45	107	5	101	0	27	250	0	27	100.0%	142	56.8%	71	943	71	56.8%	37	479	71	56.8%	34	464
8月度	6	4	11	27	131	4	67	0	27	250	0	27	100.0%	148	59.2%	73	993	73	58.4%	40	542	75	60.0%	33	451
9月度	25	6	12	33	114	1	69	0	25	226	0	25	100.0%	137	60.6%	71	1006	66	58.4%	36	485	71	62.8%	35	521
10月度	45	14	11	26	163	2	65	0	27	250	0	27	100.0%	153	61.2%	76	1173	72	57.6%	38	569	81	64.8%	38	604
11月度	30	6	4	15	110	0	50	0	26	232	0	26	100.0%	150	64.7%	73	1055	74	63.8%	34	561	76	65.5%	39	494
12月度	24	5	3	36	73	0	36	0	24	224	1	23	95.8%	131	58.5%	63	1025	65	58.0%	33	516	66	58.9%	30	509
1月度	26	6	7	44	104	2	53	0	24	220	1	23	95.8%	117	53.2%	63	835	58	52.7%	33	363	59	53.6%	30	472
2月度	24	5	2	29	178	1	44	0	24	220	0	24	100.0%	139	63.2%	66	1073	68	61.8%	35	593	71	64.5%	31	480
3月度	27	9	4	43	159	3	32	0	26	236	1	25	96.2%	146	61.9%	73	1051	66	56.9%	35	471	80	67.8%	38	580
計	256	77	76	346	1626	21	732	0	308	2820	4	304	98.7%	1672	59.3%	847	12350	814	57.7%	435	6292	858	60.9%	412	6058

区分	全体計（交流スペースと活性化スペースの合計値）																
	10-12			13-15			15-17			17-19			19-21			全区分小計	
月	利用 ごま数	利用可 能 ごま数	利用率	利用 ごま数	利用可 能 ごま数	利用率	利用 ごま数	利用可 能 ごま数	利用率	利用 ごま数	利用可 能 ごま数	利用率	利用 ごま数	利用可 能 ごま数	利用率	利用 ごま数 小計	利用可 能 ごま数 小計
4月度	32	52	61.5%	44	52	84.6%	36	52	69.2%	13	42	31.0%	13	42	31.0%	138	240
5月度	32	54	59.3%	39	54	72.2%	35	54	64.8%	14	40	35.0%	14	40	35.0%	134	242
6月度	31	50	62.0%	42	50	84.0%	41	50	82.0%	12	40	30.0%	11	40	27.5%	137	230
7月度	37	54	68.5%	38	54	70.4%	34	54	63.0%	17	44	38.6%	16	44	36.4%	142	250
8月度	32	54	59.3%	42	54	77.8%	40	54	74.1%	18	42	42.9%	16	42	38.1%	148	250
9月度	30	50	60.0%	40	50	80.0%	38	50	76.0%	16	38	42.1%	13	38	34.2%	137	226
10月度	39	54	72.2%	43	54	79.6%	35	54	64.8%	19	44	43.2%	17	44	38.6%	153	250
11月度	33	52	63.5%	41	52	78.8%	39	52	75.0%	19	38	50.0%	18	38	47.4%	150	232
12月度	28	48	58.3%	36	48	75.0%	29	48	60.4%	22	40	55.0%	16	40	40.0%	131	224
1月度	28	48	58.3%	36	48	75.0%	33	48	68.8%	11	38	28.9%	9	38	23.7%	117	220
2月度	30	48	62.5%	40	48	83.3%	38	48	79.2%	17	38	44.7%	14	38	36.8%	139	220
3月度	29	52	55.8%	38	52	73.1%	39	52	75.0%	22	40	55.0%	18	40	45.0%	146	236
計	381	616	61.9%	479	616	77.8%	437	616	70.9%	200	484	41.3%	175	484	36.2%	1672	2820

## (2) 市民活動を支援する環境づくり

市民活動団体の情報を取りやすくするために、チラシラックやカウンターラックを整えるとともに、自由に情報を検索できるようにするため、フリースペース内に貸し出しパソコンを設置しています。フリースペースに関しては狭い室内を広く感じられるように、常に清潔に整理整頓を心がけました。会議室利用団体の表示デジタルも大型化して、会議室予約のデジタル利用も進んでいます。

### 【評価と課題】

利用者満足度調査の結果として、センター利用の多くは会議室利用ですが会議室・フリースペース利用の満足度は今年も 97.7%と高い評価を受けました。特に嬉しいことは、スタッフの対応への満足度が 99.6%ということです。一方で、インターネット環境が不安定との設備面での指摘がありました。全体としての満足度も 97.9%と高い評価です。今後も利用する方々に、満足してもらえるセンター環境をつくるとともに、職員も引き続き市民活動支援をするために必要な能力や経験を研鑽していき、適切な対応に備えていきます。

## 2. 市民活動を行う者、市民、事業者、市及び地域の相互の連携並びに交流の促進に関する事業（地域・団体連携交流事業）

### (1) はちおうじNPOフェスティバル

八王子で活動するNPOを紹介・発信して八王子の市民活動を知ってもらおうと同時に、市民との交流の場として多くの市民に市民活動に興味をもってもらい、市民活動のすそ野が広がるように毎年開催しています。

はちおうじNPOフェスティバル 2025			
日 時	2025年8月24(日) 10:30~16:30		
会 場	東京たま未来メッセ 展示室 A/B		
団体数	44 団体 (本部を含む) アクティビティ 枠: 6 一般 枠: 49 (展示 18・物販 31) YouTube ライブ 出演 15 団体		
ボランティア	38 名 (高校生 29・大学生 5・一般 4)	来場者	約 1,600 人
参加団体アンケート回答者: 36 名	詳細は別紙「参加団体アンケート集計結果」参照		
参加団体アンケート回答者: 36 名	詳細は別紙「参加団体アンケート集計結果」参照		
①事前対応・説明会	とても良かった・良かった	80%	
②ブース区画の設定	とても良かった・良かった	67%	
③YouTube ライブ	とても良かった・良かった	47%	無回答 25%
④施設について	とても良かった・良かった	80.5%	
⑤全体の感想	秋開催が良い 狭くなったが内容が濃かった 子どもの来場者が多かった。(夏休みからか) 今後も継続して毎年開催してほしい いろいろな活動が一同に会したイベントは素晴らしい		

学生ボランティアの参加が良かった

⑥来年も参加するか 参加したい 53% 参加したくない 0%

⑦満足度は？（10点満点） 平均値 7.6 無回答 11 団体（36 団体中）

・参加者アンケート（回収 50 枚）→ 詳細は別紙「来場者アンケート集計」参照

・イベントを知ったきっかけ チラシ 34% SNS 24% 紹介 14%

・来場の理由 出展団体に興味 32% 市民活動に興味 20% 情報収集 24%

・良かった点

NPOに触れたこと、知れたこと、とても良かった。大学生の活動も見られて良かった。

八王子のNPOについて広く知ることができた。視点が広がった。

いろいろな団体があって楽しい。良い体験になった。

・満足度 大満足・満足 86%

#### <課題>

アンケートでは改善点について出展団体の位置が分かりにくいという意見が多かったため、来年度はこの点工夫が必要である。

一般的に事前の広報が足りない（特に今年度）ように感じたため、来年度は参加者募集段階から、SNS等も利用してしっかり広報計画を立てたい。

#### <評価>

令和7年度は夏の開催、スペース2分の1での開催だったが、評価、満足度にはあまり影響がなかったように思う。各参加団体も、来場者も来年に期待してくれる方が多く、たま未来メッセでの開催も4回目となり、「NPO フェス」という略称含めだいぶ定着してきた感がある。

## (2) 地域連携交流会

協働の場づくりのための市民活動団体の交流会は、団体同士の横の連携だけでなく、行政や公共的性質を持った組織にも呼び掛け、興味のある市民も募り、テーマ別・分野別等の様々な視点から開催しています。

テーマ	地域連携交流会 「あなたにとって、必要な居場所とは？」		
日時	2025年11月9日（日） 13:00～16:00		
会場	オープンイノベーションフィールド多摩八王子館 2F 会議室		
担当	カ石 マルシア		
対象	興味があるどなたでも	参加者	37名（定員：30名）
事業内容	第1部 さまざまな機能・スタイルの「居場所」を紹介 第2部 5つのグループで「居場所」について情報共有と意見交換		
評価と課題	本交流会は、単なる情報交換に留まらず、具体的な連携へと発展する大きな成果を上げました。 ・ <b>新たな連携の創出</b> ： 交流会をきっかけに、3 団体が協力の可能性について協議を開始したほか、障		

害者支援団体と国際関係団体が繋がるなど、分野を超えた対話が始まりました。

- **具体的なアクションの誘発：** 登壇団体（バラエティクラブ）への訪問予約が2団体入ったほか、グループ単位での連絡網の作成や、共催イベントの検討など、継続的な関係性が構築されました。
- **新技術への関心：** メタバース等のIT技術を活用した居場所づくりが注目を集め、今後の活動における新たな可能性が示唆されました。

ディスカッションを通じて、以下の5つの主な課題が浮き彫りとなりました。

1. **ミスマッチ：** 提供されている居場所と、実際に求められている居場所の間のギャップ。
2. **リソース不足：** 運営を支える人材および資金の不足。
3. **情報発信：** 必要な人に情報が時々届いていない現状。
4. **地域理解の希薄さ：** 全体的に地域のつながりが薄く、活動への理解が得られにくいところもある。
5. **運営の固定概念：** 補助金等に頼りすぎる姿勢や、既存の枠組みにとらわれることへの懸念。

### (3) センター1日出張

市民活動のより一層の広がりや市民活動支援センターの周知を目的として中央地域以外で1日出張を実施し、市内の様々なところで活動する団体へセンターの周知と市民活動の掘り起こしを行っています。

事業名	八王子市市民活動支援センター 1日出張&地域交流会（西部・西南部・北部・東部地域）		
日時	年4回 5/17 9/20 11/29 2/7 9:30~17:00		
会場 場所	市民センター・保健福祉センター・道の駅会議室・生涯学習センター等、各地域で地域住民が参加できるアクセスの良い会場		
担当	カ石・佐藤・簗野・小林他センタースタッフ		
対象	地域住民・地域で活動している団体・学校関係者・中間 支援組織・企業など	参加 人数	下記別途記載

#### 事業報告

##### ・5/17 西部地域：

午前中：情報共有・センターの案内・はちコミねっと・団体の紹介

午後：はちコミねっとサポート（1）・相談（地域活動）対応

「地域交流会」11名参加：地域住民（2）、はちまるサポート（1）、学運協（1）、団体（5）、町会（1）、地域の住民（1）。お互いの自己紹介・活動紹介をしてから、告知・募集・情報共有（困っていること、教えてほしいこと、伝えたいこと）と意見交換会を行った。

##### ・9/20 西南部地域：

午前中：活動をはじめたい一般の方と仲間募集したい団体の相談があった。ニーズと募集内容があったため紹介し、後日見学することが決まった。その後、はちコミねっと非公開団体の方々が相談に来場し復活手続きと情報更新を行った。お昼に「はちコミねっと」の個別相談と1団体の相談対応（募集・連携）後、「はちまるサポート館」（2）と「はちまるサポート浅川」（1）の方々が来場し、話を伺った。

午後：「地域交流会」を実施。20名が参加（団体13、中間支援組織、自治会1、一般移民1）。お互いの自己紹介・活動紹介をしてから、告知・募集・情報共有（困っていること、教えてほしいこと、

伝えたいこと)と意見交換会を行った。

・ **11/29 北部地域**：

午前中：相談 1 件 (活動の周知)

午後：「地域交流会」を開催した。時間差があったが、合計 20 名 (中間支援組織・行政 (7)、市民活動団体 (12)、学運協 (1)) が参加。お互いの自己紹介・活動紹介をしてから、告知・募集・情報共有 (困っていること、教えてほしいこと、伝えたいこと) と意見交換会を行った。

・ **2/7 東部地域**：

午前中：地域で長く活動している団体の方と意見交換し、社会貢献活動をはじめたい方にセンター・「はちコミねっと」などを紹介し、NPO ハンドブックを差し上げ、登録団体の方に「はちコミねっと」と YouTube の活用についての相談対応をした。

午後：活動の PR と情報収集のために 3 名 (1 団体・一般市民) が来場。雪が降る中、「地域交流会」を実施。今回、11 名が参加 (行政 1、中間支援組織 3、市民活動団体 5、一般市民 2)。お互いの自己紹介・活動紹介をしてから、告知・募集・情報共有 (困っていること、教えてほしいこと、伝えたいこと) と意見交換会を行った。

**課題・成果・評価**

各地域での交流を通じて、現場が直面している以下の課題が浮き彫りとなった。

- **センターの認知度不足**：市民活動支援センターの存在や機能が、地域末端まで十分に浸透していない。
- **連携・コラボの希薄さ**：活動の多くが単独団体に留まっており、横のつながりやセクターを超えた協力関係が少ない。
- **地域間格差**：多くのイベントが中央地域 (市街地) で開催されるため、周辺地域 (特に東部など) からの参加が物理的に困難である。
- **情報の偏りと分断**：特定の地域内での情報発信はあるものの、全体として偏りがあり、新旧住民の間や世代間での情報共有が不十分。
- **拠点設置の要望**：特に東部地域などでは、身近に相談できる「センターの支部」の設置を望む声が多数挙がった。

本事業により、単なる情報提供を超えた具体的な結びつきが生まれた。

- **新たなネットワークの構築**：同じ地域で活動しながら接点のなかった団体同士、あるいは地域外で活動し特定地域との連携を模索していた団体同士が繋がり、分野を超えた交流が実現した。
- **多様な主体の参画**：地域住民、町会、学校運営協議会 (学運協)、企業、行政、中間支援組織など、多様な視点からの意見交換がなされた。
- **支援の具体化**：地域の困りごと (場所の確保、周知方法、活動資金など) に対して、その場で知恵を出し合う相互サポートの土壌が形成された。

参加者からの評価は高く、地域連携の必要性が再認識された。

- **参加者評価**：「自ら出向く」スタイルの重要性が高く評価され、地域に密着した対話の場が不足している現状が浮き彫りとなった。
- **運営側評価**：1 日出張による個別フォローと、その後の交流会をセットにすることで、潜在的なニーズの掘り起こしと関係構築が効率的に行われた。
- **提案事項**：交流会をより活性化させるためのアイデアとして、「活動の自慢大会」のようにポジティブ

ブに発信できる場の設定が提案された。

#### 今後の展望

1. 支部機能の検討と定期開催： 東部地域をはじめとする各地域での継続的な開催を検討し、常設支部に代わる定期的な出張拠点の確立の可能性/必要性を調べる。人手不足・時間不足などが壁となる。
2. 交流手法のブラッシュアップ： 「活動紹介自慢大会」などの新しいプログラムを取り入れ、より多くの住民や団体が気軽に参加できる仕掛けを作る。
3. 地域情報のハブ化： 各地域で得た情報を「はちコミねっと」等へ集約し、地域間の情報格差を是正する取り組みを強化する。

#### (4) NPO 八王子会議

テーマ	第 12 回 NPO 八王子会議 「協力の作法 ver.2～協力の輪を広げよう！～」		
日時	2026 年 2 月 22 日 (日) 14:30～17:45 (第 1 部 成果発表+Win Win ゲーム・ 第 2 部 相利評価表作成) 18:00～ (八王子市民活動協議会主催懇親会)		
会場	東京たま未来メッセ 3F 会議室 1		
担当	岡崎理香・カ石マルシア		
対象	ご興味があるどなたでも	参加者数	51 名 (定員：50 名)
事業内容	<p>51 名 (20 団体・中間支援組織・行政・町会・一般市民) が参加した。本会議は、団体同士が互いの利益を確認し合い、新たな価値を共に創り出す「協創」をテーマに二部構成で実施された。</p> <p>第 1 部：『協創の道プロジェクト』に参加した団体の成果報告</p> <p>第 2 部：グループワーク (相利評価表)</p>		
課題、成果と評価	<p>課題：ディスカッションおよびアンケートを通じて、以下の課題が共有された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 概念理解の難易度： 「相利協創」のルールや手法を短時間で完全に理解し、ワークに反映させることの難しさを指摘する意見があった。</li> <li>● 時間管理の制約： 内容が非常に盛りだくさんであったため、「時間が足りない」「やや消化不良に感じた」という声があり、深い議論を行うための時間配分が今後の課題となった。</li> <li>● 連携パターンの偏り： 場所を持つ団体が核となり、他団体がそこを利用するという特定の連携パターンに依存しがちな傾向が一部で見受けられた。</li> </ul> <p>成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 思考の構造化と整理： 「どうやって考えをまとめたらいいのか整理できた」との声があり、相利評価表が複雑な連携を整理する有効なツールとして機能した。</li> <li>● セクターを超えた関係構築： 20 団体に加え、行政や町会、一般市民など多世代 (30 代～70 代以上) が参加。多様な視点が交わることで、「一つのまとまり (合意形成)」ができるプロセスを体感できた。</li> <li>● 実践への意欲向上： 登壇団体の「最初と最後で計画が全く変わった」というリアルな苦労話が、参</li> </ul>		

加者の共感と「自分たちも作ってみたい」という意欲を引き出した。

**評価：**

全体として、満足度 88%（とても良い）という極めて高い評価を得ました。

- **成果発表：** 満足度 100%（とても良い・まあ良い）。実践者の生の声が非常に高く評価された。
- **ワークショップ：** 満足度 88%。ゲームを介したチームビルディングの魅力が、その後のワークの質を高めたとの意見が多く寄せられた。
- **年齢層：** 60代が47%と中心でしたが、30代・40代を合わせて30%に達しており、次世代を担う層の参画も確認できた。

**今後の展望：**

**ツールの継続的な活用支援：** 活動内容の整理・団体や他セクターとのつながりなど、活用できる場面が多く、相利評価表やアプローチ手法の理解を深めるため、スタッフを含め、フォローアップ研修や少人数制の勉強会を必要に応じて実施する。

**(5) 八王子・ひと・まち井戸端会議**

事業名テーマ	ネットワーク作り企画 「八王子・ひと・まち井戸端会議1-教育とまちづくり」		
日時・期間	2025年7月31日（木）19:00～21:00		
会場・場所	市民活動支援センター関連		
担当	佐藤志穂、カ石マルシア（地域連携担当）		
対象	八王子市内にあるフリー スクール関係者	参加者	5団体の代表者/スタッフ、センタースタッフ 3名
事業内容	<b>【目的】</b> 市民活動支援センターとして、不登校・フリースクール分野で活動する団体の実態把握と今後の連携可能性を探ることを目的とし、フリースクール関係者によるネットワーキングの場を設けた。		
評価と課題	<b>【成果・評価】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• 5団体が一堂に会し、活動内容・地域連携手法・スタッフ確保策など多岐にわたる情報交換が実現した。</li><li>• センターとして各団体の現状・ニーズ（人材、場所、広報）を直接把握できた。</li><li>• 参加者相互の横つながり（LINE グループ等）が確認・促進された。</li></ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• スタッフ・ボランティア不足は複数団体に共通する深刻な課題であり、ボランティアセンターとの連携強化や新たな募集手法の検討が必要。</li><li>• 外国籍の子ども（情報格差・権利の問題）への支援が手薄であり、国際交流・福祉分野との連携が求められる。</li><li>• フリースクールへのアクセス（認知・費用・送迎等）に関する情報が保護者に届いていないケースが多い。公教育との連携は一部団体で進んでいるが、全体的な仕組みとしては未整備。センターとしての橋渡し役が期待される。</li></ul>		

事業名テーマ	ネットワーク作り企画 「八王子・ひと・まち井戸端会議2-農とまりづくり」		
日時・期間	令和7年11月28日(金) 19:00～21:00		
会場・場所	八王子市民活動支援センター		
担当	佐藤志穂、カ石マルシア(地域・団体連携交流事業担当)		
対象	農とまちづくりに関わる市内 団体関係者	参加者	6団体の代表者/センタースタッフ3名

### 事業内容

【目的】本事業は、農業を軸に教育・福祉・地域活動など多様な分野の団体が一堂に会し、それぞれの活動や課題を共有するとともに、分野横断的な連携の可能性を探ることを目的として実施した。特に、単独では解決が難しい社会課題に対し、団体間の協働による新たな価値創出や持続可能な地域づくりの実現を目指す対話の場として位置づけた。

### 評価と課題

#### 【成果・評価】

- ・ 農業・福祉・教育・地域活性化にまたがる多様な団体が集まり、分野横断的な対話が実現した。
- ・ 「農地を地域資源として守る」「農×福祉×教育の連携モデル」など、具体的な協働アイデアが複数生まれた。
- ・ クロストークにより各団体の連携意欲が可視化され、次の小さなアクションへの意識が高まった。
- ・ センターとして農分野における各団体のニーズ(場所・人材・広報・行政連携)を直接把握できた。

#### 【課題】

- ・ 農業従事者の高齢化・後継者不足・耕作放棄地の増加は複数団体に共通する構造的課題であり、継続的な対応が必要。
- ・ 就労支援・福祉との連携は可能性が高い一方、制度・資金面での整理が必要。
- ・ 都市住民の農への関心を高めるための広報・情報発信の仕組みが各団体ともに不十分。
- ・ クロストークで出たアイデアを実際のコラボに結びつけるフォローアップの仕組みが必要(次回ミーティングや進捗確認の場の設定)。

事業名テーマ	ネットワーク作り企画 「八王子・ひと・まち井戸端会議3-環境とまりづくり」		
日時・期間	2026年3月6日(金) 18:00～20:00		
会場・場所	八王子市民活動支援センター		
担当	佐藤志穂、カ石マルシア(地域・団体連携交流事業担当)		
対象	環境とまちづくりに関わる市 内団体関係者	参加者	4団体の代表者、センタースタッフ3名

### 事業内容

【目的】「環境とまちづくり」をテーマに活動する団体が集まり、顔の見える関係を築くことを目的とした。活動紹介にとどまらず、お互いの課題や強みを共有しながら、環境分野のつながりを出発点に、福祉・教育・地域づくりなど他分野との連携へと広げていくきっかけの場を目指した。

### 課題と評価

#### 【成果・評価】

- ・ 農業・福祉・教育・地域活性化にまたがる多様な団体が集まり、分野横断的な対話が実現した。

- ・「農地を地域資源として守る」「農×福祉×教育の連携モデル」など、具体的な協働アイデアが複数生まれた。
- ・クロストークにより各団体の連携意欲が可視化され、次の小さなアクションへの意識が高まった。
- ・センターとして農分野における各団体のニーズ（場所・人材・広報・行政連携）を直接把握できた。

**【課題】**

- ・農業従事者の高齢化・後継者不足・耕作放棄地の増加は複数団体に共通する構造的課題であり、継続的な対応が必要。
- ・就労支援・福祉との連携は可能性が高い一方、制度・資金面での整理が必要。
- ・都市住民の農への関心を高めるための広報・情報発信の仕組みが各団体ともに不十分。
- ・クロストークで出たアイデアを実際のコラボに結びつけるフォローアップの仕組みが必要（次回ミーティングや進捗確認の場の設定）。

**3. 市民活動に係る情報の収集及び提供に関する事業**

**(1) 広報紙「Support802」・メールマガジン**

事業名 テーマ	・広報紙「SUPPORT802」第126号～第131号発行 ・メールマガジンNo.195～No.207
日 時 期 間	・広報紙「SUPPORT802」奇数月発行 ・メールマガジン毎月発信
部 数	SUPPORT802 毎号 3,000 部
担 当	鈴木 佐登美 森 望
配布先 対 象	・広報紙 SUPPORT802 センター登録団体、協議会会員、八王子市関係所管、市内公共施設、市内郵便局、中間支援団体、八王子市商工会議所、八王子まち・なか休憩所、市内 NPO 団体、配布希望町会・自治会、配布希望大学、その他（八王子センター元気、八王子市レクリエーション協会、紙面掲載団体）市内イトーヨーカドー 配布先：約 505 カ所（毎回増減有） ・メールマガジン「SUPPORT802 だより」 メールマガジン購読希望者：929（毎回増減有）

**事業内容**

**(1) 広報紙 SUPPORT802**

**[1～2 ページ団体紹介、3 ページセンターイベント紹介、4 ページはちコミねっと、センター情報掲載]**

第 126 号【自分たちの居場所は自分たちでつくる】一般社団法人オレンジハウス

第 127 号【地域の温かい場所、私設図書室「おさんぽ」が紡ぐつながり】まちの図書室・保健室 おさんぽ

第 128 号【はちおうじ NPO フェスティバル 2025】

第 129 号【「見えない困難さ」に寄り添い、地域で育む学びの場】 みんなの学び流星群 from 八王子

第 130 号【新春八王子 NPO すごろく】

第 131 号【不登校のこどもを対象にした「フリースクール」】 NPO 法人 Big Forest

**第3部 メールマガジン「SUPPORT802 だより」**

**[センター行事を発信。(講座、イベント情報・申し込み等)]**

\*毎月1日に発行

【課題】

・広報紙 SUPPORT802

令和7年度は家庭でもなく、学校でもない第3の居場所という観点で活動されている団体の特集。第3の居場所の存在をさらに多くの人に知ってもらう必要を実感。

SUPPORT802 を楽しみにして頂けるよう、団体にも利用して頂ける工夫をしたい。

・メールマガジン

センター内行事の発信の定番化

【評価】

・広報紙 SUPPORT802

一般紙等には掲載されないが社会にとってタイムリーで貴重かつ重要な視点から特集を組めたと思う。第3の居場所を近隣の方々に知って頂く機会になった。(第126号は団体に大きく利用して頂いた。)

・メールマガジン

毎月1日、期日通りの発信

(2) 八王子コミュニティ活動応援サイト「はちコミねっと」の登録・保守および活性化

事業名	団体登録と管理
事業内容	
<p>①登録団体(2025.4.1~2026.3.31)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体数 : 356 団体 ※3/31 現在 (昨年度3月末+11)</li> <li>・非表示団体 : 256 団体 ※3/31 現在</li> <li>・新規登録団体 : 36 団体</li> <li>・度再表示団体 : 15 団体</li> <li>・登録抹消団体 : 7 団体</li> </ul>	
<p>&lt;課題&gt;</p> <p>「はちコミねっと」の団体プロフィール修正もれがあり、連絡が届かない団体がわずかではあるが存在する。今後、団体プロフィールに変更が生じた際は即時修正するよう徹底していきたい。</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>宣誓提出の催促メールに団体名と名前を記載したことで、提出率の向上に効果があった。そして、連絡者(事務局)だけでなく、代表へも送付したことも提出率向上につながった。登録団体が1年に1度提出することに慣れてきたことと、様々な工夫の結果、未提出の団体が例年よりかなり減ってきている。</p>	

事業名	「はちコミねっと」
事業内容	
<p>(1) 公開件数(2025.4.1~2026.3.31)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お知らせ 54 件</li> <li>・イベント講座 420 件</li> <li>・仲間募集 17 件</li> <li>・活動レポート 391 件</li> </ul>	

(2) 講習 (2025.4.1~2026.3.31)

- ・基本講習会 (月 1 回) 13 名
- ・個別講習 (月 2~3 回) 27 名
- ・個別講習 (随時) 66 名
- ・電話、メールによる講習 多数

(3) トラブル対応

(4) 修正

<課題>

登録しただけで、情報の更新をしていない団体が多く存在するため、利用を促す方法を検討したい。

<評価>

元気 365 (「はちコミねっと」) は、今年度よりパーソルビジネスプロセスデザイン株式会社からアルファサード株式会社へ事業譲渡された。昨年度まで、アルファサード社は元気 365 の技術パートナーだったので、様々な不具合についての対応も早く、長い間保留になっていた多くのトラブルが全て解決した。そのことから、更に様々な要望もできるようになった。

登録団体のニーズに合わせて講習会や個別相談会等を実施してきたことで、「はちコミねっと」の利用が増えている。

(3) ホームページの活用・保守・活性化

事業名	ホームページ
事業内容	
(1) 会議室予約システム <ul style="list-style-type: none"><li>・電話による会議室予約受付時間を 4/1 から開館日の 13:00~17:00 に変更 2025.4.1~2026.3.31</li><li>1. <b>予約実績</b>：全予約数 1,640 件、システム利用数 1,310 件、 操作団体数 99 団体、システム利用率 79.9%</li><li>2. <b>キャンセル実績</b>：全キャンセル数 252 件、システム利用数 209 件、 操作団体数 43 団体、システム利用率 82.9%</li></ul>	
(2) 新着情報の添付ファイル名 固定表示のタイトルを指定できるよう変更	
(3) ホームページリニューアル	
(4) お問い合わせフォームの自動返信メール実装済み	
(5) ドメイン管理事業者の移管 (2025.11) お名前ドットコム → さくらインターネット	
(6) システムトラブル対応 (2025.9)	
<課題>	
ホームページが公開から年月が経過し、時間が経過し、デザイン・機能面での老朽化が見られるため、利用者利便性の向上と情報発信力の強化を目的として全面リニューアルを実施することとなり、計画を開始した。	

<p>&lt;評価&gt;          昨年度、会議室予約システムを利用開始し、今年度は利用率 80%以上を目標にした。最近は、毎月 80%を超える利用率で登録団体にしっかりと根付いたと思われる。</p>	
事業名	情報関係その他
<p>事業内容</p> <p>(1) 日報の電子化 2026 年度 4 月より使用開始予定          (2) サイボウズによるシフト管理の見直し、改善          (3) ルーター周りの配線取り直し改善          (4) 会議室予約案内表示の改良（モニター取り換え、HDMI の無線化）          (5) センターご利用ガイドと「はちコミねっと」の基本操作の冊子を作成          (6) 会議室ヘスピーカーの設置（退室時間のお知らせ）          (7) WIN10 のサポート終了に伴う PC の買い替え          (8) Office365 への移行</p>	
<p>&lt;課題&gt;          DX 化と同時に業務の進め方についても検討したい。</p>	
<p>&lt;評価&gt;          日常業務の DX 化を進め、業務効率化に貢献した。</p>	

#### 4. 市民活動に係る啓発及び人材育成に関する事業

団体の基盤、信頼性、広報力等を強化する事業及び、市民活動紹介や啓発となる事業活動を進めています。

(1) **パワーアップ講座** <6回> 各 12 団体（24 名）程度

◆方針：市民活動団体がスキルアップする連続的な講座を行ないます。また、参加団体同士の交流の場となるような開催形式にも配慮しています。

◆実績：下記内容で全 6 回の開催が完了しました。

事業名	八王子 NPO パワーアップ講座 2025 全 6 回
日時・期間	2025 年 8 月 1 日（金）～2026 年 1 月 9 日（金） 各回 14：00～16：30
会場・場所	八王子市生涯学習センター（クリエイトホール） 10 階 第 2 学習室
担当	岡崎理香／大塚ひとみ
対象	市民活動団体 ※連続受講は団体の受講を基本とするが、これから活動を始めたい等、受講動機を確認した上で、個人の参加も可能とする。
<p>事業内容</p> <p>(1) プログラム</p> <p>2025. 8.1 第 1 回 NPO 活動を始めよう ・活動にあった団体の「かたち」          ・ビジョン・ミッションの策定          東京ボランティア・市民活動センター相談員 森玲子</p> <p>2025. 9.5 第 2 回 団体の運営 ・居心地のよい組織          ・仲間を増やす</p>	

・良い会議の進め方

一般社団法人サステナブルコミュニティ共創機構 代表理事 横山泰治

2025.10.3 第3回 NPOの会計 ・NPOとNPO法人の会計

NPO会計税務専門家ネットワーク 理事長 脇坂誠也

2025.11.7 第4回 団体の資金づくり ・ファンドレイジングとは

・伝わる助成金申請書の書き方

・クラウドファンディングを成功させるコツ

ファンドレイジング・ラボ 徳永洋子

2025.12.5 第5回 市民活動団体の広報戦略 ・NPOのブランディング

・効果的な発信

パブリックリレーションズコンサルタント 本多陽子

2026.1.9 第6回 活動の課題は何ですか プロボノワーカーと取り組むお悩み解決

八王子市市民活動支援センタープロボノワーカー 小林広和

(2) アンケートより

各回の満足度(「とても良い」の割合)

第1回(設立) : 93%(活動の「かたち」が整理された)

第2回(組織運営): 100%(場づくりの大切さを体感)

第3回(会計) : 77%(数字への苦手意識が軽減)

第4回(資金調達): 77%(多角的な集金方法を習得)

第5回(広報) : 100%(「伝える」から「伝わる」への転換)

第6回(課題解決): 88%(プロボノという新たな可能性)

<課題>

① 受講者数・集客の伸び悩み

参加人数(各回8~13名程度)が定員(24名)を下回っている点が最大の課題である。

→第5回広報で学んだ「ターゲット設定」や「ベネフィットの提示」を、本講座自体のチラシやWeb告知に反映させ、未参加団体へ届くような媒体も検討する。

② 当日キャンセル・無断欠席への対応

「当日キャンセル」や「無断欠席」がいたため、席割りに支障をきたした。

→「団体を代表して受講している」と思わせる工夫と、1回でも受講しなかったら損をすると思わせる構成が必要

<評価>

① 全回を通じて、講師の質に対する評価が極めて高かった。

「難しい内容をポップに伝える(第2回)」「会計の苦手意識を払拭する(第3回)」「具体的な事例が豊富(第4回)」など、各分野の専門家がNPOの実情に合わせた言語で解説したことが、受講者の納得感につながった。

② グループワークに重点をおくと、満足度が高かった。

ワークショップにおいて「発表形式ではないグループワークが良かった」という声が出るなど、過度なプレッシャーを与えずに学びを深める工夫が評価された。

(2) アクティブ市民塾 <3回> 各 10~30名

- ◆方針：市民活動団体が講師となり、場合によっては団体の活動先に訪問し実演等も交えながら活動紹介します。参加した市民の活動の動機になることや交流の場とします。
- ◆実績：下記内容で全3回の開催が完了しました。

テーマ	第208回 八王子の原爆資料館と平和について考える		
日時・期間	2025年7月23日(水) 14:00~16:00		
会場・場所	八王子市生涯学習センター(クリエイトホール) 5階 展示室		
講師団体	八王子 平和・原爆資料館	担当	大塚ひとみ
参加者	定員40名/参加者43名		

事業内容

(1) プログラム

- ① 八王子平和・原爆資料館の活動紹介
- ② 遺品の紹介：資料館担当者
- ③ 広島原爆投下時の説明: パワーポイントを用いた広島への被爆に関する説明
- ④ 展示品閲覧・質疑応答随時
- ⑤ まとめ：平和を考える重要性を再確認

(2) アンケート：回答者15名 とても良い80% まあ良い13% やや不満7%

<課題>

- ・アンケートを書いてもらう時間と場所がなかったために回収率が悪かった。  
アンケートフォームも用意したが、参加者の年齢層が高く、あまり効果がなかった。
- ・話の内容が充実していたこともあるが、展示品をゆっくりとみてもらう時間がとれなかった。
- ・アンケートの“やや不満”は、講座内容よりも環境への不満だった(赤ちゃんの泣き声が常にして集中できない)。小学生にも聞いてほしい内容だったので年齢制限をしていなかったが、内容を理解できない乳幼児連れの方はお断りするべきだった。

<評価>

- ・定員40名のところ上回る申込みを受けた。
- ・被爆した方の遺品を見せながらその方の親族がひととなり語るなど、かなり貴重な話を聞けたり、被爆者に直接お話しいただいたりと、内容の充実した講座となった。
- ・戦後80年という節目の年に、今まで八王子市民にあまり知られていなかった「八王子 平和・原爆資料館」を紹介できたことが良かった。

テーマ	第209回 心が休まる第三の居場所づくり拝見		
日時・期間	2025年9月13日(土) 13:30~14:30、14:30~15:30(二部入れ替え制)		
会場・場所	まちの図書室・保健室「おさんぽ」 〒193-0934 八王子市小比企町1622-1 磯沼ハイツ103号		
担当	鈴木佐登美 佐藤志穂		
対象	興味のある方どなたでも 学校でもなく自宅でもない居場所に興味ある方	参加者	1部：5名 2部：5名 (計10名)

<p>事業内容</p> <p>第3の居場所として誰でも立ち寄れる私設図書室「おさんぼ」の見学会。(参加費：無料)(定員：12名)</p> <p>(1)「おさんぼ」 設立の経緯・活動の紹介・今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開設と運営 ・まちライブラリー、みんとしよ、一箱本棚制度の紹介</li> </ul> <p>(2) 絵本講師による「大人の私に読み聞かせ」</p> <p>(3) 質問・交流会</p> <p>アンケート結果(回答者10名)</p> <p>① 講座の満足度・とても良い78%・まあ良い22%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用している方の様子をもっと少し聞きたかった。</li> <li>・暖かく、気持ちがおだやかになるととても良い図書室である。</li> <li>・絵本セラピーが初めてでしたがとても良かった。</li> </ul> <p>② 参加のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サードプレイスの実践を知りたかったため。 ・家が近いので以前から気になっていたため。</li> <li>・フリースクール運営での本の置き方、利用の仕方などを学びたかった。 ・活動に興味があったので。</li> <li>・知人より聞いた。支援センターのチラシ。 ・大人への絵本の読み聞かせに興味を持ったので。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所の広さ(6畳位)の関係で人数に制限があり二部に分けて開催したが入れ替えの時間がバタバタと落ち着かなかった。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3の居場所を模索している方にとってフリースクールとは異なる一つの例として紹介できたことは意義があったといえる。</li> </ul>
---

テーマ	第210回 回想法サロン体験会		
日時・時間	2026年1月17日 14:00~16:00		
会場・場所	八王子市市民活動支援センター 交流スペース・活性化スペース		
講師団体	思い出トークカフェ ROKUMARU	担当	望月香里
参加者	12名(定員16名)		
事業内容	<p>(1) プログラム</p> <p>① 回想法の紹介</p> <p>② 回想法によるグループワーク</p> <p>③ グループワークの振り返り、感想、意見交換</p> <p>(2) アンケート結果(回答者11名)</p> <p>① 講座の内容について ・とても良い 73% ・まあ良い 27%</p> <p>② 講師団体(思い出トークカフェ ROKUMARU)の認知度 ・知らなかった 100%</p> <p>④ 感想(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は思い出せなかったことも他の人の話から自分の記憶がよみがえってきておもしろかった。</li> <li>・回想法についてまた勉強がしたい。</li> </ul>		

- ・実践できたことで回想法の良さを実感できた。
- ・認知症の親族との会話に利用してみたいと思った。

<課題>

事前のリマインドを2回実施したにもかかわらず、当日無連絡での欠席者が4名と多く非常に残念だった。

<評価>

回想法という技法については関心のある参加者であったにも関わらず、今回紹介した、回想法を取り組んで活動している「思い出トークカフェ ROKUMARU」の知名度は、講座前は0であった。今回の講座を通じて、紹介団体の活動が認知され、参加者の帰属するコミュニティを介してつながりも広がり、喜ばしい結果となった。

また、グループワークで実際に体験したことで、参加者の理解度、満足度も高くなったと思われる。

### (3) 支援講座 <8回>

- ◆方針： NPOや市民活動団体向けに、市民活動の支援となる講座を行ないます。

「すぐに役立つちょっと支援講座」をセンター職員が講師となって少人数対象で行います。

テーマ	支援講座① 市民活動に役立つポスター、たれ幕の作り方。～今日からあなたも看板屋～		
日時	4月25日(金)、13:30~15:30		
会場	八王子市市民活動支援センター 会議室 活性化スペース		
担当	鈴木 佐登美		
対象	市民活動・地域活動をしている方	参加者	4名+ (視覚障害の方の付き添い2人)

#### 事業内容

団体で開催するイベントや講演に使用するたれ幕を簡単に作る方法を紹介。

- (1) パソコンの無料ツール Canva を紹介し、簡単にデザインしたものをコピー機で A3 に印刷。
- (2) 印刷したものを貼り合わせ大きなポスター・たれ幕にする。

費用がない市民活動団体が安価に出来、きれいに出来上がる技を目の前で実施。

#### アンケート結果 (回答者 4 名)

- ① 講座の満足度 ・とても良い 75%      まあ良い 25%
- ② 内容の理解度 ・よくわかった 50%
- ③ 参加の動機 ・活動に役立てたい。 ・自分でもチラシが出来るかなと思って。  
・パソコンに利用機会を増やす為。

#### 【課題】

持参してもらったパソコンの状況と理解力がそれぞれで、進行状況がバラバラになってしまった。プリントアウトまでがなかなかスムーズに出来ず、用意していた用紙を使って貼り付けの作業を見てもらった。

#### 【評価】

大きなポスター、垂れ幕を必要としている団体には有用であった。  
個人で活動している方の表現方法を広げるきっかけとなったと思う。

テーマ	支援講座② NPOのお金の管理～Excelを使って楽に管理してみよう！		
日時	2025年5月22日（木） 14：00～16：00		
会場	八王子市市民活動支援センター 活性化スペース		
講師	大塚ひとみ		
対象	NPO 任意団体の会計担当になった方 お金の管理でお悩みの方	定員 参加者	10名 5名
事業内容			
<p>プログラム</p> <p>①NPOの会計の重要性</p> <p>②お金の管理のポイント</p> <p>③会計に特化した Excel の活用</p> <p>④練習「現金出納帳をつくってみよう！」</p>			
<p>&lt;課題&gt;</p> <p>定員 10名のところ 5名の参加者しかいなかった</p> <p>考えられる要因</p> <p>→ ・周知不足</p> <p>・木曜日午後の時間帯は参加できる人が少ない</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>アンケート：回答者 5名    とても良い 80%    まあ良い 20%</p> <p>&lt;参加者の声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なことから裏ワザまで学ぶことができ、よかったです。</li> <li>・NPO 会計の必要性を教えてもらってから、Excel で実用的な事を教えてもらったので、とてもとてもわかりやすかった。</li> </ul> <p>ただ「Excel」の講座をするのではなく、会計の重要性を話したうえで「楽にできるための Excel」をお伝えできたのが良かった。わかりやすいとの感想をいただいた。</p>			

テーマ	支援講座③ 市民活動や地域活動の文書づくりに活かす生成 AI 入門		
日時	2025年6月1日（日） 14:00-16:00		
会場	八王子市市民活動支援センター活性化スペース		
担当	八王子市市民活動支援センター職員 浜野悦博		
対象	地域活動や市民活動を行っている団体の文書作成担当者	参加者	18名
事業内容			
<p>近年、ChatGPT を代表とする生成 AI の発展により、文章作成の効率化やアイデア創出の支援が可能になっています。本講座では、市民活動や地域活動に携わる方々を対象に、無料で始められる生成 AI を活用した文書作成のノウハウを伝える講座を開催しました。</p> <p>生成 AI の昨今の開発状況や用語の定義を説明し、活動報告書、広報資料、企画書、助成金申請書など、多岐にわたる文書作成の場面で生成 AI をどのように活用できるかを具体的に解説しました。</p> <p>また、利用にあたっての現状の課題や今後の AI アライメント問題（人々の価値観や倫理観に沿って適切に</p>			

行動することを保証するためにはどうしたらよいかという課題) や「AI2027」、シンギュラリティ問題についても触れ、今後の生成 AI をめぐる社会課題等の基礎的な教養についての解説もしました。

課題と評価

パソコンの習熟度に違いがあり、パソコン教室のような操作を主体とする講座ではなく、全般の理解のための座学としましたが、実際に手を動かして学ぶことを目的とした参加者もありました。

こうした市民に対し、職員がパソコンインストラクターのように手取り足取り個別指導するかどうかは検討の余地があります。

テーマ	支援講座④ 集まれ！プロボノの森 八王子 NPO 大相談会～IT 編～		
日時	2025年10月26日(日) 14:00～16:00		
会場	八王子市市民活動支援センター 交流スペース		
講師	籾野貞夫 小林広和		
対象	特にITについて「もやもや」を感じている団体 お困りごとがある団体 「プロボノ」とはどんなものか知りたい方	定員 参加者	15名 5名 協力プロボノワーカー4名
担当	ファンド(岡崎、籾野、小林、大塚)		

事業内容

(1)プログラム

- ① プロボノとは
- ② プロボノワーカーさん自己紹介&アピールタイム
- ③ 参加団体さん自己紹介
- ④ もやもや大相談会

(2)アンケート

回答者：5名 とても良い 60% まあ良い 40%

<参加者の声(一部)>

- ・話し合える形がよかった
- ・生の声を聞いた

<課題>

- ・プロボノワーカーさんや団体さんの自己紹介タイムが長くなり、交流・相談の時間が少なくなった。
- ・定員15名の募集だったが、参加者が5名と少なかった。ただ、少ない方がプロボノワーカーさんとより具体的な相談まで進められたので、結果的には適正な参加者数だった。

<評価>

- ・プロボノワーカーの顔が見えて、実際に話を聞くことができたことがよかった。  
→結果として、ニーズ情報登録申込書7枚(案件としては9件)をいただいた。  
どんな人に頼むかがわからないと、ニーズを出すにはいたらないということがわかった。

支援講座⑤ アクティブ防災訓練～もしセンターで、大地震が発生したら？	担当	日比野
開催日	2025.12.7(日) 10:30～12:30	
会場	八王子市市民活動支援センター 会議室 (活性化スペース使用)	



### 受講しての感想

- ・自分の現在の課題、これからやるべきことが明確にできました。
- ・具体的な事例もあり、よく理解出来ました。

### <課題>

- ・個人の申込の方が、当日連絡なしキャンセルだった。
- 「市民活動団体の資金集めとしてのクラウドファンディング」という位置づけをもっとはっきりとさせたほうがよかった。
- ・実際の団体さん支援の例を資料として公開していたが、講師が重要でないと思うところは省いていたため資料の連続性がなかった。講師が話している内容を、受講生が資料で探している姿が見られた。

### <評価>

- ・実際に支援したことのあるプロボノワーカーさんが講師だったので、具体的な事例を話してもらえ、わかりやすかった。
- ・プロボノにつなげるような言葉で締めくくっていただいた。

テーマ	支援講座⑦ Google ドライブを使ってみよう		
日時	2026年2月23日 14:00~16:00		
会場	八王子市市民活動支援センター 交流スペース		
担当	望月香里/上野由紀子		
対象	市民活動・地域活動をされている方	定員	10名
	Google アカウントを所有されている方	参加者	11名

### 事業内容

#### (1) プログラム

- ①Google ドライブとは
- ②Google ドライブの基本の使い方
- ③ファイルの共有・共同編集の体験

#### (2) アンケート結果（回答者9名）

- ①講座の内容について
  - ・とても良い 55.6%      ・まあまあ良い 44.4%
- ②内容の理解度
  - ・よくわかった 55.6%      ・ある程度わかった 33.3%      ・わからないところがあった 11.1%
- ③感想（一部抜粋）
  - ・ファイル共有について学べてよかった。
  - ・複数人での動作がリアルタイムでわかってよかった。
  - ・無料で仲間内でデータをやりとりするうえで、使えそうだった。
  - ・まったくの初心者だったので、進み方が少し早かった。

### <課題>

パソコン系の講座の要望が多いので、今後も検討したい。また、パソコン系の講座は、もう少しテーマを絞った内容にしてもよいと思った。

<評価>

講座の内容について「とても良い」「まあまあ良い」を回答者全員より得た。ほとんどの方に、ある程度内容も理解していただけた。特にファイル共有においては、相手とのやりとりを自分一人では確認しづらいため、実習が役立ったといえる。

(4) 実践講座

◆方針： 市民向けに、NPOや市民活動の普及や啓発となるような講座を行ないます。

テーマ	寄付の教室～誰かのためにできること・未来へのアクション	担当	岡崎
日時	2025年10月19日(日) 14:00~16:00		
会場	八王子市生涯学習センター(クリエイトホール)第2学習室		
講師	(公財)日本非営利組織評価センター 浦邊智紀		
定員	30名	参加者	22名

内容

第1部 寄付の教室

- ①NPOって何だろう
- ②寄付って何だろう
- ③寄付を体験してみよう
  - ・グループ毎のワークショップ(寄付先、寄付する理由などを話し合う)
  - ・模擬紙幣を使って寄付を体験する

第2部 いろいろな寄付のカタチ

- ①NPOを応援してみよう!
- ②クラウドファンディング、フードドライブ、本、使用済み切手などいろいろな寄付のカタチの紹介

アンケート：回答者11名 とても良い 82% まあ良い 18%

<参加者の声(一部)>

- ・わかりやすく説明してくれていろいろな協力活動を知ることができた。
  - ・座学のみではなく、実際に地域で活動しているNPOの団体から直接話を聞いて良かった。
  - ・少ない物品からでも寄付が出来ることを知りました。
  - ・子供でもわかりやすくて良かったです。
  - ・どのように寄付ができるのかを学びました。
  - ・もう少し専門的な具体的な話を、講師の先生から聞きたかった。
  - ・コミュニケーションをとりながら、寄付について学ぶことができました!
- もっといろんな方とお話できたらさらに楽しそう、つながりができそうと思いました!

課題と評価

<課題>

- ・今年の実践講座もターゲットを主に子どもにしたが、小学生、中学生の場合は、親が見つけて申し込まないと子どもにはたどり着けない。子どもにアウトリーチするのは難しいと思った。
- ・趣旨は良いのだが、チラシ1枚ではなかなかその趣旨や良さが伝わらないと思った。広報にももう少し工夫が必要である。

## <評価>

- ・今回の参加者の動機が「寄付に興味があった」という回答が多かった。12月は国際的な寄付月間である。これを機に、毎年12月は、寄付についてもっと周知する契機になった。
- ・寄付についてわかり易く説明してくれた。
- ・多世代の参加になったため、日頃にはない多くの感想、意見が聞けた。
- ・NPOに対する興味と、お金以外の「寄付」のカタチを理解するのに役立ち、各団体にボランティアや活動協力の繋がりができたとNPO団体から報告があった。

## 5. ゆめおりファンド事業

テーマ	ゆめおりファンド事業	物品支援、団体情報開示支援
期間	2025.4.1～2026.3.31	
場所	—	
担当	旗野、大塚	
事業内容	<p>(1) 団体情報開示支援</p> <p>1) 「ゆめおりファンド」支援団体の変更</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 昨年度に報告したように、「はちコミねっと」登録団体の中で「ゆめおりファンド」登録を希望する団体も「ゆめおりファンド」物品支援を利用していただけのように変更いたしました。</li><li>② 更に、今年度は「ゆめおりファンド」を広く利用していただけよう「はちコミねっと」登録団体で団体情報を公開している団体が「ゆめおりファンド」を利用できるよう変更いたしました。</li><li>③ これによりCANPAN登録66団体に加えて「はちコミねっと」に登録している団体（CANPAN登録団体を含めて約360団体）が利用いただけるよう変更しました。既に、「ゆめおりファンド」からノート提供のご案内”として全ての「はちコミねっと」登録団体に案内をお届けしました。</li><li>④ 今年度に予定していたスタートアップ団体に対しては「はちコミねっと」登録申請時に「ゆめおりファンド」の利用案内を継続実行しています。しかし「ゆめおりファンド」利用継続希望の有無確認については、その多くの団体が「はちコミねっと」に登録しているので行いませんでした。</li></ol> <p>(2) 物品支援</p> <p>1) 寄付・提供件数</p> <p>ここ数年間、寄付件数は減少傾向にありましたが今年度は9件、提供件数は26件でした。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 遠く大阪のコーユールンティア株式会社（以下敬省略）をはじめとし、ウェブサイト「ゆめおりファンド」を知り寄付いただいた三省堂流通センター株式会社、ジャノメ株式会社、ピーシーエス、株式会社セントラル技研、八王子商工会議所、NPO法人まゆだま、市民の方から物品寄付していただきました。</li><li>② 今年度はノートをフリースクール・無料塾を中心とした団体に提供できたことが大きな特徴ではないかと思えます。</li></ol> <p>2) 寄付・提供物品の品目</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 寄付品目は、三省堂流通センター株式会社（ノート5,640冊）コーユールンティア株式会社・関西支店から（ファイル100冊）、八王子商工会議所（書庫、メタルラック、トレーボックス、コ</li></ol>	

ートハンガー等)、ジャノメ株式会社、シーピーエス、株式会社セントラル技研(カレンダー、ダイアリー) NPO 法人まゆだま(封筒)、NPO 法人八王子市民活動協議会、市民の方(プリンター・FAX) などでした。

- ② 提供品目は、フリースクール学び舎みどりの木(書庫、レターケース、コピー用紙。クリアフォルダー、丼等) NPO 法人エチオピアの多国籍共同体(テーブル・チェアセット、チェア、テーブルカッター、クリップボード、扇風機、緊急用毛布、立体マスク、消毒用スプレー、丼、ノート等)、どうぞの会、勉強お助け隊由木教室、みんなの学び流星群 from 八王子、NPO 法人 Big Forest、startup あさひ塾、一般社団法人昼間の塾フレップ、NPO 法人八王子市民活動協議会、フリースクール学び舎みどりの木、一般社団法人まもりすくん、はなみずき広場居場所無料塾、中央地区環境市民会議、NPO 法人結の学び舎いちえ、絵本たまたまばこ、HUG FOR ALL、八王子子ども文庫連絡協議会、DIY クラブ、ビューティフル・ハーモニー、勉強お助け隊由木教室、つながろう会、お金と金融を学ぶ会、ボーイスカウト八王子第 12 団等 21 団体(ノート 2,380 冊)、その他団体市民(カレンダー等多数) 3 件の計 26 件でした。

## 課題と評価

### (1) 情報公開支援と CANPAN 情報開示

#### ① 「ゆめおりファンド」利用条件の変更

昨年度、「はちコミねっと」登録時に CANPAN 情報開示★レベル同等の開示項目を加えたことで「はちコミねっと」登録団体は希望すれば「ゆめおりファンド」を利用できることになりました。

しかし、「ゆめおりファンド」は運営基盤が確立していない団体を支援していくことが大切であることから、2ステップを踏まずに全ての「はちコミねっと」登録団体(約 360 団体)が「ゆめおりファンド」を利用できるように変更<sup>※</sup>しました。これにより「ゆめおりファンド」利用率は大きくなり支援の幅が広がったと考えています。

<sup>※</sup>但し、団体のアカウントビリティ(説明責任)を果たし透明性を確保し、団体の信頼性を担保するため「はちコミねっと」で情報を開示する必要があります。

- ② CANPAN FIELDS は、独自にウェブサイトを持ってない小さな団体でもブログを持てるなど、IT ツールを活用して、地域社会に団体の活動を発信できる公益プラットフォームとして 2001 年にスタートしました。2008 年にこの仕組みを利用し「ゆめおりファンド」がスタートしました。その後の IT の発展に伴い、現在は団体が自前のウェブサイトや SNS 等を活用して情報を発信し、団体の活動内容を伝えられようになり当初の CANPAN FIELDS の目的・意義は薄れているように感じます。

また、団体情報の正確性と信頼性を担保するため、日本非営利組織評価センター(JCNE)のガバナンス認証など第三者評価制度も始まり、団体に認知・浸透しつつあります。支援センター指定管理者八王子市民活動協議会も JCNE「グッドガバナンス認証」を 2024 年に取得しています。

これらの動向から日本財団は CANPAN FIELDS の今後のあるべき姿について検討を進めています。支援センターは団体の信頼向上支援のためこの動きを注視していく必要があると考えています。

## (2) 物品支援

- ① 今年度は地域・社会貢献に意欲的な企業より多数のノートをご寄付いただき、「ゆめおりファンド」がハブ、中継点となって、地域で活動しているフリースクール、無料塾を中心に提供し、経済的、社会的な困難を抱える子どもたちへ直接ノート（2,680冊）を届けました。僅かですが資材購入費削減につながり本来の活動にリソースを回せたのではないかと思います。企業の余剰資源循環をベースとした次世代育成支援活動として、企業と団体の協働・共創の一歩になったのではと考えています。  
「ゆめおりファンド」の理念を理解・協力頂いた企業や学習支援団体に改めて感謝いたします。
- ② 企業からの物品寄付が減少したことを受け、企業を訪問、SNSで寄付を依頼する予定でしたが、数社に留まり成果に結びつく実績はありませんでした。  
次年度は、地域・社会貢献活動に関心ある企業を中心に「ゆめおりファンド」に対する共感を引出し、物品寄付につなげていきたいと考えています。

テーマ	ゆめおりファンド事業	人財支援（プロボノ）
担当	小林、大塚	
事業内容		
1. プロボノ案件 令和7年度目標：支援件数3件 令和7年度実績：支援件数17件（9団体） プロボノニーズ： <ul style="list-style-type: none"><li>・団体Webサイト 3件</li><li>・SNS利用法 5件</li><li>・クラウドサービス利用 3件</li><li>・動画作成 1件</li><li>・マーケティング手法 1件</li><li>・地図作成 1件</li><li>・イベント企画 1件</li><li>・クラウドファンディング 2件</li></ul> 対応プロボノワーカー：6名＋1団体		
2. 周知活動		
①2025.10.26（日） 支援講座「集まれ！プロボノの森 八王子NPO大相談会～IT編～」 参加者：5団体＋協カプロボノワーカー4名 プロボノニーズ9件につながった。		
②2025.12.14（日） 支援講座「クラウドファンディング ～あなたの活動を後押しします～」 参加者：6名 プロボノワーカーの村本さんより、川崎プロボノが支援したクラウドファンディング成功事例を紹介。		
③2026.1.9（金） パワーアップ講座 第6回 「活動の課題は何ですか」プロボノワーカーと取り組むお悩み解決		

協カプロボノワーカー：2名

④2026.3.15（日） 地域デビューパーティー

プロボノ募集チラシ配布

⑤1日出張参加

- ・ 5.17 西部地区（川口市民センター）：参加者 旗野、小林
- ・ 9.20 西南部地区（浅川市民センター）：参加者 旗野、小林
- ・ 11.29 北部地区（道の駅滝山）：参加者 旗野、小林
- ・ 2.7 東部地区（生涯学習センター南大沢分館）：参加者 旗野、小林、大塚

課題と評価

人財支援においては、プロボノを活用する機会が少ないという課題を克服するために、今期はプロボノワーカー（プロボノさん）と団体が直接対話し交流する機会を積極的に創りました。センター1日出張にも毎回参加し、各地域で活動している方の生の声を聴き、プロボノの活用をご案内しました。

これらの取り組みの結果、今期のプロボノ案件の実績は目標の約6倍、17件になりました。

この事業にはプロボノさんの参加と協力が欠かせません。プロボノさんとセンターが円滑に協働できる仕組みを整えました。そして日頃のコミュニケーションを欠かさず、プロボノさんが安心して団体を支援できる環境を整えました。

この結果、いずれの案件でもプロボノさんが楽しみながら団体を支えている様子を見ることができました。八王子の市民協働協創型プロボノはこの1年間で大きな変化と進化をしたと実感しています。

## 6. 調査研究活動

### （1）施設利用者満足度調査

令和7年度も施設利用者満足度調査を令和7年11月に行いました。集計結果は公開情報としてPDFファイルにし、支援センターホームページからダウンロードができるように設置しています。

今回は、来所者の他に、オンラインでも回答できるようにしました。

スタッフについての対応などの満足度については「満足」と「やや満足」を合わせて99.8%（前年は99.6%）であり、ほぼすべての回答者が満足と答えています。また自由意見では、「明るい挨拶」、「親切」、「丁寧」という言葉があり、スタッフの運営姿勢が好評価を得ている結果だと思われます。センター全体の満足度は98.8%（昨年98.8%）であり、これもほぼすべての人が満足と感じていることがわかります。

詳細は別紙添付の「利用者満足度調査報告書」を参照ください。

#### 【評価と課題】

満足度調査の結果、利用者の皆様からは概ね肯定的な評価をいただいております。特に、駅からのアクセスの良さやスタッフの丁寧な対応、快適な会議室環境などが高く評価されています。一方で、いくつかの改善点も指摘されました。まず、施設の認知度向上に関する要望が多く、特に若年層へのPR強化やSNSを活用した情報発信などが求められています。また、予約システムの変更に伴う高齢者への配慮や、時間管理に関する要望など、利用者の多様なニーズへの対応も課題として挙げられています。これらの意見を踏まえ、八王子市市民活動支援センターは、より多くの市民が利用しやすい施設となるよう、様々な取り組みを進めていく必要があります。

## 7. 市民活動に係る相談に関する事業

### (1) 相談対応及び専門相談

事業名	相談業務		
期間	通年		
場所	センターおよび出張場所		
担当	センター職員		
対象	八王子市民・団体	参加者	八王子市民・団体
事業内容	<p>1. 相談業務の概況</p> <p>相談記録に基づき、1年間の活動を相談の傾向をまとめ、分析して報告します。</p> <p>令和7年度の1年間で当センターでは合計130件の相談に対応しました。</p> <p>相談者は、NPO法人や一般社団法人などの法人格を持つ団体から、任意団体、さらにはこれから活動を始めようとする個人まで多岐にわたります。</p> <p>2. 相談内容の分析（要望と対応）</p> <p>相談内容は大きく以下の5つのカテゴリーに分類されます。</p> <p>① 団体設立および法人化支援</p> <p>NPO法人や一般社団法人の設立に関する相談が年間を通じて多く寄せられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望：設立手続きの概要把握、定款の作成・チェック、NPO法人と一般社団法人の違いの確認など。</li> <li>・対応：「NPOマニュアル」や東京都のガイドブックを用いた伴走支援を実施しました。ある団体は東京都からの指摘に対し何度も書類を修正し、最終的に取り下げを検討するような長期的な伴走ケースも見られました。</li> </ul> <p>② 団体運営・ガバナンスの適正化</p> <p>組織の持続可能性や法遵守に関する相談です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望：監査の役割（業務監査・会計監査）、役員改選の手続き、理事会の運営ルール、定款変更の要否、源泉徴収事務の進め方など。</li> <li>・対応：専門的な知識を噛み砕いて説明し、法務局での登記の重要性や、定款に則った適正な手続き（臨時総会の開催など）を助言しました。</li> </ul> <p>③ 資金調達（助成金）</p> <p>活動資金の確保は多くの団体にとって喫緊の課題でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望：活用可能な助成金の情報提供、申請書の書き方や事業計画の相談など。</li> <li>・対応：「はちコミねっと」の助成金情報ページやセンター蔵書の「助成金ガイドブック」を紹介しました。また、受益者負担（参加費）の設定や寄付プログラムの構築など、助成金に頼らない自立的な収益確保についても意見交換を行いました。実際に歳末たすけあい助成金、市民企画事業、キリン財団の助成金獲得につながるなど、成果も出ています。</li> </ul> <p>④ 広報・IT活用（デジタル支援）</p> <p>情報の周知と事務の効率化に関する相談です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望：イベントの集客方法、「はちコミねっと」の活用法、SNS（Facebook, Instagram）の運用、AIを活用した資料作成や議事録作成など。</li> <li>・対応：生成AIを用いたスライド作成や、NotebookLMを活用した文字起こし・議事録作成の助言など、</li> </ul>		

最新ツールを用いた支援を行いました。また、アナログチラシとデジタルの併用による効果的な集客方法を提案しました。

#### ⑤ 連携・マッチング・情報収集

新たな活動の場やパートナーを求める相談です。

- ・要望：同様の活動をする団体の紹介、連携先の模索、ボランティア先の探し方など。また小学校からセンターへの依頼で市民企画事業採択団体の児童の健全育成事業を紹介し好評を得たケースもあります。
- ・対応：「1日出張」や「地域交流会」をきっかけとしたマッチングを積極的に行い数多くの「つなぎ」の事例が実現しました。特に、高齢化による活動継続が困難な団体と、新たな活動意欲を持つ個人をつなぐ役割を果たしました。

#### 評価と課題

##### 3. 評価

- ・専門性と伴走支援の質の高さ：NPO 法人の設立や運営、解散といった専門性の高い手続きに対し、東京都や法務局の指針に基づいた的確な助言が行われています。特に、長期にわたる書類チェックなどの伴走支援は、市民の活動意欲を支える大きな要因となっています。
- ・デジタル活用の先駆的支援：AI ツールや SNS を活用した広報・事務効率化の支援は、市民活動の生産性向上に寄与しており、時代に即した支援体制が構築されています。
- ・アウトリーチ（出張相談）の成果：市内各地域への「1日出張」を通じて、センターに足を運ぶ機会がなかった潜在的な相談層を掘り起こし、その場での団体間連携（マッチング）を実現している点は高く評価できます。

##### 4. 課題

- ・団体の高齢化と後継者問題：多くの団体から「メンバーの高齢化」「次世代へのバトンタッチ」への不安が寄せられています。単なる活動紹介に留まらず、プロボノの活用や、若年層が参画しやすい組織体制への変革支援が今後さらに重要となります。
- ・解散・承継相談への対応：「活動停止」「解散の検討」といった相談が複数寄せられており、団体のライフサイクルに合わせた「出口戦略」や、事業の円滑な承継に関する支援メニューの充実が求められます。
- ・設立支援の長期化への対策：法人設立において、行政（東京都）とのやり取りが難航し、支援が1年以上に及ぶケースが見受けられます。相談者の意欲を削がないよう、東京都との連携強化や、より早期の段階での書類精査体制の検討が必要です。
- ・資金面での自立支援：助成金獲得は一時的な解決策に過ぎず、人件費確保などの慢性的課題に対し、継続的な収益構造（自主事業の構築など）を提案できるコンサルティング機能の強化が課題です。

## 8. 総務関連部門

- (1) 年間を通して文書管理規定に基づき、適正な文書管理に努めました。
- (2) 施設設備の適切な管理（付帯施設・機器・物品の管理、整備）を行いました。
- (3) 支援センター内のルールに基づき、会計担当者が適切な経理処理（給与計算・コピー収入管理・物品購入）を行いました。
- (4) 労務担当者が適正なスタッフ出退勤管理を行いました。
- (5) 四半期ごとの指定管理者モニタリングにはその準備段階から、センター長、会計担当者が出席して適切な対応を行いました。
- (6) 7月と1月に開催している「地域参加支援に関する情報交換会」に参加しました。参加団体は八王子国際協会、センター元気、社会福祉協議会、シルバー人材センター、八王子市協働推進課、八王子市民活動協議会、八王子市市民活動支援センターです。
- (7) 7月と2月に開催された「8市・市民活動連絡会」に参加しました。参加者は小平市、西東京市、三鷹市、調布市、日野市、府中市、町田市、八王子市の市民活動支援センターセンター長、スタッフ、市の担当課職員です。
- (8) 大学コンソーシアム、大学、大学生との連携、交流を強化しました。令和5年度から八王子市民活動協議会が大学コンソーシアム八王子の加盟団体となったことで、多くの連携、協働が生まれました。特にNPO フェスティバルには大学コンソーシアムの学生企画事業に取り組む大学が3大学も出展し、また、多くの学生ボランティアもNPO フェスティバルを盛り上げてくれました。市民活動と大学・学生の連携、交流の強化につながりました。
- (9) 大学インターンシップ及び市内中学校職場体験の受け入れは令和7年度はありませんでした。
- (10) 東京ボランティア・市民活動センターの新任研修プログラムの一環である「現場訪問」実習の受け入れを令和7年度も行ないました。福生市、昭島市、調布市、練馬区、東京都の社会福祉協議会から新任スタッフの方々に八王子市市民活動支援センターの取り組みを説明し、実際に業務にも参加いただきました。
- (11) 市内のイベントへの参加・出展  
令和7年度は他団体、組織のイベントへの出展はしていません。
- (12) スタッフの教育研修の実施と充実（外部研修、内部研修）  
東京ボランティア・市民活動センター主催の研修や、外部団体による講座、研修会にスタッフの担当分野に合わせて参加しました。また、他市の市民活動支援センターに依頼されて依頼されて、講座の講師にも派遣しました。
- (13) 市内の多様な団体やセクターとのこれまで以上の連携による新たな価値の創出（共創）  
あらゆる機会を捉えて、多様な団体と繋がり、連携による価値の創出につながるよう活動しました。令和7年度はNPO 八王子会議のテーマも「協創」として、協力の作り方に取り組みました。

## 9. モニタリングへの取り組み

「協定内容の履行を確保し、市民に対して質の高いサービスの提供を実現するため」に行われているモニタリングへの取り組みは、協定事業の遂行とともに、独自計画を付加した年度事業計画の効果的推進に役立てています。評価結果はこれを真摯に受け止め、スタッフで共有し、事業運営に活かしました。

## 10. 企画運営会議（八王子市民活動協議会が主催）

四半期毎に1回、モニタリング結果を参照しながら企画運営会議を開催しました。効果的な事業推進を討議し、市民活動を取り巻くニーズに対応した中長期的、未来志向的視点で支援センターの運営について協議しています。

### 11. 情報セキュリティ委員会

個人や団体の情報を預かる支援センターは、その情報の保護管理に大きな責任があるとの認識から、支援センター個人情報保護方針に基づき、情報セキュリティ委員会を全スタッフが構成員となり設置しています。

また、監査人による監査で適正な情報管理のチェックを受けると共に、スタッフを対象にした教育研修会を実施し、法令及び八王子市指定管理者における情報セキュリティガイドライン、支援センター情報セキュリティ管理マニュアル等の遵守を徹底しました。

### 12. 八王子市環境マネジメントシステムへの対応

八王子市役所環境マネジメントシステムへの対応として、それぞれの部門や事業が環境配慮行動に取り組むとともに、支援センターの特性である団体活動サポートや様々な事業を通して環境マネジメントに取り組んでいます。市からの調査にも定期的に応じています。令和6年度は実践講座として「SDGs～気候変動～」を取り上げることにより、環境問題についても考える機会を持ちました

### 【3】はちおうじ志民塾（八王子市からの委託事業）

はちおうじ志民塾 17 期

実施期間：令和 7 年 9 月 13 日（土）～令和 8 年 2 月 14 日（土）

受講生：10 名

場所：クリエイトホール（八王子生涯学習センター）第 2 学習室・視聴覚室

八王子市中心市街地

NPO 法人小津倶楽部

東京都立大学

長池公園自然館、多摩草むらの会他

#### 「はちおうじ志民塾第 17 期 講座スケジュール」

	日付	テーマ	概要	講師
1	9 月 13 日(土) 14:00～16:00 クリエイトホール 第 2 学習室	入塾式	◆入塾式 ◆自己紹介 ◆基調講演	八王子市民活動協議会 基調講演講師 (公財)八王子市学園都市 文化ふれあい財団 前理事長 フリーアナウンサー 村松 真貴子
2	9 月 20 日(土) 13:30～16:30 クリエイトホール 視聴覚室	地域課題を解決する①	◆オリエンテーション (13:30～14:30)	八王子市民活動協議会 八王子市市民活動支援センター
			◆地域に飛び出すプランづくり (14:30～16:30) ・志民塾を契機に始めた「私の活動」 志民塾 OB に聞く ・私たちの課題を考えてみよう	志民塾 OB ・まほうのほうき 沼崎 道子 ・デジタルお助け侍 京田 芳典 ・森の葉フォレストリーフ 森山 樹子
3	9 月 27 日(土) 13:30～16:30 クリエイトホール 視聴覚室	地域への第一歩	◆地域参加に必要な コミュニケーション ・多様な価値観、タイプの人たちとの 関係づくり ◆地域とのかかわり	・合同会社結惟 代表社員 鈴木 結子
4	10 月 4 日(土) 10:00～16:30 小津倶楽部	地域を育む活動①	◆町会と NPO が連携した取り組み ・町会や NPO、行政、大学研究機 関、市民等の連携による活動で、 地域を元気にする取り組み	・NPO 法人小津倶楽部 代表理事 前原 教久 小津倶楽部のみなさん
5	10 月 11 日(土) 13:30～16:30 クリエイトホール 第 2 学習室	自分を知る① 人生の棚卸し	◆自己の動機・価値観・強味を知る 自身の人生経験を振り返 り、地域で活かせる知識 や可能性を洗い出す ◆グループ分け	・(一社) 日本リフレクティング協会 理事 作田 稔
6	10 月 18 日(土) 13:00～17:00 中心市街地	八王子を知る①	◆くちコミ隊とのまち歩きによる地 域資源の発掘・再発見 ・八王子の魅力を再発見する ・まちの活性化のヒントを得る	・八王子まちの魅力 くちコミ隊の皆さん
7	11 月 1 日(土) 13:30～16:30	地域課題を解決する②	グループ活動 ◆グループの課題 課題の掘り起こし ◆今後の予定	
	11 月 8 日(土) 13:30～16:30 クリエイトホール	八王子を知る②	◆八王子市の概況 八王子未来デザイン 2040 に基づく 地域づくり、八王子づくり	八王子市市民活動推進部 協働推進課 主査 松崎 登志樹

8	第2学習室	地域を育む活動②	◆町会・自治会の活動を知る ◆ボランティアの活動を知る ・八王子のボランティア活動の事例紹介 ◆地域課題解決の活動(NPO 活動)を知る	・北野台自治会会長 篠原 ・八王子市ボランティアセンター 主査 平千尋 ・八王子センター元気 相談役 横山普平
9	11月22日(土) 13:30~16:30 東京都立大学 (南大沢)	地域資源としての大学	◆学生の地域活動の事例紹介 ～学生と地域とのつながり～ ◆グループワーク	東京都立大学 ・ボランティアセンター ・学生ボランティアコーディネーター ・人文社会学部教授 山下祐介
10	12月6日(土) 13:30~16:30	地域課題を解決する③	◆グループ活動 ・団体自主訪問 ・グループ討議など	
11	12月13日(土) 13:00~16:30 東部地区	地域を育む活動③	◆団体の立ち上げと運営を学ぶ ・各団体の立ち上げ、事業の発展過程などを学ぶ	・NPO 法人多摩草むらの会 代表理事 風間美代子 ・NPO 法人エヌピーオー・ フュージョン長池 理事長 田所 喬
12	1月10日(土) 13:30~16:30 クリエイティブホール 第2学習室	地域課題を解決する ④	卒塾発表に向けて 地域課題を解決するためのプレゼンテーション ◆伝わるプレゼンテーション ・伝え方 ・パワーポイントの作り方	・八王子市民活動協議会 ・はちおうじ志民塾事務局
13	1月24日(土) 13:30~16:30 クリエイティブホール 第2学習室	自分を知る② 自らの海図を作ろう	◆海図の完成 ・これまでの講義の振り返りと海図への反映 ◆海図の発表 ・共有とフィードバック	・(一社) 日本リフレクティング協会 理事 作田 稔
14	1月31日(土) 13:30~16:30	地域課題を解決する⑤	◆卒塾発表準備	
15	2月7日(土) 13:30~16:30 クリエイティブホール 視聴覚室	卒塾発表	◆卒塾発表 塾生達が自ら設定した地域課題の解決方法、アイデアなどを、自主的に訪問した団体も含めて発表する	作田 稔 鈴木 結子
16	2月14日(土) 14:00~16:00 クリエイティブホール 視聴覚室	卒塾式	◆修了証書授与 ◆決意表明 ◆講師からの激励等	八王子市 八王子市民活動協議会

◆「志民塾卒塾後のフォローアップとして、NPO 八王子会議、地域デビューパーティー802 への出席を求める

【評価と課題】

今期の受講生は10名であり、年齢は20代から70代までで、現役世代ですすでに何らかの活動に取り組んでいる方が多く幅広い構成になりました。アンケートではそうした現場活動に大変役に立った、また初めて知った八王子の魅力について市民として日々の生活の中で行動が変わる契機となったなど高い評価と満足度を頂きました。

プログラム後半のグループ活動について少人数ではやりにくいこともあったため、企画運営や告知広告について検討を行い、さらに満足度の高いプログラムで受講生増加につなげたいと思います。

## 【4】協議会自主事業

### 1.事務局（総務）

#### 会員数の推移

#### （1）会員管理

会員の高齢化で、会員数は減少しましたが、協議会のイベントやプロジェクトへの参加を通じて、若い世代の入会がありました。今年度取り組んだ「相利協創」を活かして、会員の増加に努めてまいります。

	6年度末	退会	入会	7年度末
団体会員	68	-3	2	76
個人正会員	62	-6		56
賛助会員	31	3	2	30
協力会員	24	1	2	25
合計	185	-13	7	179

#### （2）新年交流会

令和7年1月18日（日）午後1時から東京たま未来メッセにて、市長、市議会議長、八王子市社会福祉協議会常務理事を始め多くの皆さまを招き、恒例の新年式典・交流パーティーを開催しました。交流一パーティーでは、60名弱の参加者で賑やかに交流を楽しみました。

#### （3）支援センターの指定管理者

令和8年度は支援センター指定管理者の更新のため、7月に応募書類を提出し、8月に岡崎理事長によるプレゼンテーションがありました。地域に根ざした「共創」のプラットフォーム、市民一人ひとりが輝ける場の提供、ユニバーサルデザインに配慮した市民社会の実現という基本方針の下、1.「共創」の実現を支える 2.未来をになう人材の発掘と育成そして継承 3.透明性と説明責任 4.自律的かつ持続可能な財政基盤 5.未来に向けて「チャレンジ」し続ける組織体制という経営方針を示し、私共の強みや現状の成果と評価、課題と改善点を説明。1.参加を増やす 2.活動に寄り添う 3.みんなをつなぐ 4.情報を集める・伝える 5.地域を共に創るという目標を掲げました。11月の市の評価会議で指定管理者候補に決定した後、令和8年1月の議会で承認の運びとなりました。

#### （4）理事研修

8月の理事研修では、個人情報保護法とハラスメント研修を行い、理事・監事の法令遵守のアップデートを図りました。

## 2.広報部

### （1）協議会だより

・令和7年度の協議会だより発行の概要は以下の通りです。

発行	発行日	主な内容
120号	2025年 4月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度活動概要・通常総会開催のお知らせ</li> <li>第4回地域デビューパーティー802開催報告</li> <li>第16期はちおうじ志民塾、卒塾発表・卒塾式</li> <li>第11回NPO八王子会議&amp;市民活動交流会開催報告</li> </ul>
121号	2025年 6月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度通常総会報告</li> <li>令和7年度協議会活動方針</li> <li>「木曜サロン」スタート</li> <li>はちおうじNPOハンドブック案内</li> <li>いちよう塾講座「SDGsとまちづくり」案内</li> <li>会員紹介：Shiho Product（シホプロダクト）</li> </ul>

122号	2025年 8月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協創の道プロジェクト」の始動</li> <li>・はちおうじ志民塾 17期受講生募集</li> <li>・はちおうじNPO フェスティバル 2025 開催/ボランティア募集</li> <li>・第46回八王子いちよう祭り「わくわく広場」参加者募集</li> <li>・会員紹介：特定非営利活動法人すずしろ22</li> </ul>
123号	2025年 10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第17期はちおうじ志民塾入塾式</li> <li>・NPO フェスティバル 2025 報告</li> <li>・協創の道プロジェクト報告①</li> <li>・会員紹介：特定非営利活動法人八王子国際協会</li> <li>・第46回八王子いちよう祭り「わくわく広場」のお知らせ</li> </ul>
124号	2025年 12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第46回八王子いちよう祭りF会場「わくわく広場」開催報告</li> <li>・協創の道プロジェクト報告②</li> <li>・木曜サロン</li> <li>・理事活動報告</li> <li>・新年交流会のお知らせ</li> <li>・地域デビューパーティー802 出展団体募集</li> </ul>
125号	2026年 2月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 新年式典 交流会</li> <li>・10年20年在籍会員への感謝状贈呈、寄付金贈呈</li> <li>・会員紹介：マルベリー東京パイロットクラブ</li> <li>・理事活動報告</li> <li>・地域デビューパーティー802 出展団体募集</li> <li>・支援センタースタッフ募集</li> </ul>

## (2) ホームページの管理

令和7年度は、ホームページを活用した情報発信の強化に取り組みました。

広報誌「協議会だより」の発行に合わせ、ホームページ上でも速やかに公開し、会員のみならず市民の皆さまが協議会の活動内容や今後の予定を確認できる環境を整備しました。また、イベント情報の掲載を充実させ、「木曜サロン」「協創の道プロジェクトキックオフ」「はちおうじ志民塾」など、協議会が主催・参加した事業について、詳細情報を随時更新しました。これにより、市民の皆さまが地域活動に参加しやすい環境づくりを推進しました。さらに、情報公開ページでは例年通り、事業計画、事業報告、決算書類等を掲載し、協議会運営の透明性を確保しました。これらの取り組みにより、信頼向上につながりました。

### 【評価と課題】

「協議会だより」においては、第123号から多くの方に手に取っていただけるよう紙面のデザインを変更し、より見やすい誌面となるよう改善しました。現在は、市民センター（16か所）、市民部事務所（13か所）、図書館・保健福祉センター等60か所に加え、西武信用金庫八王子支店にも配架しています。

今後も、「協議会だより」を契機としてホームページへのアクセスを促し、市民活動への関心を高めるため、引き続き工夫と改善に取り組んでまいります。

### 3. 交流推進部

#### (1) 地域デビューパーティー802

開催日：2026年3月15日(日) 12:00~16:00

場所：学園都市センター12階、イベントホール、第1~第5セミナー室

全参加者：500名(430名+スタッフ25名) 出展団体：46

当日の入会者：27名(4団体)

昨年の10月第1火曜日から実行委員会を発足させ、取り組みました。委員が全体的に若返ったこともあり、かつてないほど積極的な委員会でした。

昨年からはじめた企業広告に関しては、多摩信用金庫、西武信用金庫を除いて33団体になり、昨年からは2倍以上増えたこととなります。

企画に対しても、通常の流れの他に、スタンプラリー、数井先生の講演に因んだ「おさふく」ことばあそびなど、来場者に喜んで頂いて、最後まで会場に滞在させる工夫を企画しました。

3月15日当日は46団体(アンケート回収36)が出展され、ホールと第1~第5セミナー室までを使っての展示になり、来場者が約500人(パンフレット配布数からの推測)になりました。

来場者アンケートによると70代が一番多く、60代、80代、50代、40代、30代、20代、10代の順となっています。(アンケート回収は148人、来場500人に対して約30%)

チデパを知った媒体ですが、家族・友人、チラシ、広報、HPやFacebookなどのネット情報、市の広報、ミニコミ誌でした。

今回はFacebookやYouTubeなどSNSを利用した広報にも力を入れました。

一緒に活動したいと思った団体はありましたか？ はい:74人 (148の半分)

応援したいと思った団体はありましたか？ はい:68人 (45%)

先日振り返りの実行委員会ですまざま反省点が出ましたので、これを参考に来年に繋げていきたいと思えます。

#### 【評価と課題】

新しい企画への取り組みや広告依頼の拡大、SNSの拡散など、実行委員の積極的な姿勢が反映し充実した内容となりました。

講演会参加者を出展団体ブースへ誘う動線の明確化が、今後の課題として挙げられます。

#### (2) 八王子いちよう祭り(わくわく広場)

開催日：2025年11月15日(土) 16(日) 場所：長房市民センター・南浅川河川敷

両日とも天候に恵まれ、計32団体が出店しました。特筆すべきは、センター職員による早期の積極的な働きかけのおかげで、9団体もの新規出店を誘致できた点です。これにより、例年以上に多様な顔ぶれでの開催となりました。また、同時開催の「リサイクルバザー」には市内から21ブースが出店。手作り品やリサイクルグッズが並びました。会場では活動紹介、展示、ワークショップのほか、河川敷での物販、フードコートでの飲食提供、体育館でのスポーツ体験(吹き矢・ゴルフ)が行われ、いずれも終始大盛況でした。また、今年度初の試みとして実施した「シールラリー」は、お子様連れの来場者を中心に大きな反響を呼びました。用意した台紙はおよそ350名の手に渡り、会場全体の回遊性を高める原動力の一つとなりました。特典の景品を各出店団体からの寄付によって賄う仕組みを構築したことで、出店者と来場者の新たな接点を生むとともに、相互協力によるイベント運営の好例となりました。会場設営から警備に至るまで、本部・出展団体・ボランティアが一体となっ

て取り組み、手作り感のある、あたたかな空間を創出しました。また、出店団体有志による「わくわく応援隊」には、準備段階から多大なご尽力をいただきました。こうした協働の広がりには、まさに「みんなで作るわくわく広場」というコンセプトを体現するものであり、持続可能な運営基盤の強化に繋がる重要な成果となりました。出店者からは「シールラリーのおかげで例年以上に集客ができた（体験・展示）」「販売スピードが速く、手ごたえを感じた（飲食）」などといった、フィードバックを数多く得ることができました。また、終了直後に複数の団体から「次回も出店したい」という前向きな申し出もいただきました。本イベントが地域活動における重要な存在感を確立していることが再確認できたと感じております。

#### 【評価と課題】

- ・運営体制の再構築と負担軽減：警備等の担当枠確保に難航した経緯を踏まえ、特定の層に負担が偏らない配置計画への見直しを行います。あわせて、ボランティア募集を強化し、持続可能な協力体制を整えます。
- ・現場対応の標準化（マニュアル強化）：担当者の経験によらず、誰でも円滑に業務を遂行できるよう現場マニュアルを刷新します。周知方法を改善し、運営の質を平準化することで、来場者・出店者双方の満足度向上を図ります。
- ・早期準備と連携の深化：新規出店者の増加に合わせ、より早期の募集・選定と情報共有を行い、地域全体でイベントを支える協力体制をさらに強固なものへと育ててまいります。

#### （3）その他

はちおうじNPO フェスティバル 2025 への出展と当日スタッフとしてサポートしました。

## 4. 地域連携ネットワーク部

### 「協創の道」プロジェクト

協力アカデミーの松原明さんから提案があり、協力アカデミーが主導する「相利協創方式」を使って協力・共創するしくみを学び、各団体が実際にそれに従って協力者を集め、目標とする事業を達成するプロセスを実践してもらうプロジェクトを、協力アカデミーとの共催で実施しました。

約半年間にわたる参加団体と協力アカデミー松原明講師とのマンツーマンの指導により、「協力モデルキャンパス pro 版」を作成しながら、自分たちの目標とする事業を設計し見える化していきました。今後はそれに基づき各団体が「相利協創」を実現していきます。

相利協創方式とは、地域課題や社会課題の解決に向けて、ステークホルダーの相利を明確にし、多主体の協働をスピーディーかつスムーズに進めるための新しい手法です。この方法は、地域のみならず解決していくためのもので、様々な考えの人たちが協力し合い、皆がそれぞれの利益を得るしくみです。

#### 【評価と課題】

多主体の協働・協創をそれぞれの主体が WinWin となる形で作っていくという、協力アカデミーの新しい手法（考え方）を用いたプロジェクトに 15 団体も申し込みがありました。「相利協創方式」への関心の高いことが理解できます。

この手法は、団体の課題と具体的な施策をロジック化する優れたツールです。このフレームワークを学び理解することで、団体の課題と施策の構造化を共有し最終的には団体自らが構造化できる知識とスキルを習得できたことは大変有意義なことです。

課題としては、今後、今回学んだことを実践するうえで、協議会のサポート体制をどう整えるか、

「相利協創方式」を啓発し、「協創の道」プロジェクトを継続していくための具体的方針が求められます。

## **5. 女性・若者・シニア創業サポート事業**

これまでの創業サポート事業は令和 5 年度で終了したため、令和7年度はこれまでご支援してきた企業や個人事業主の皆さまと、近隣のアドバイザーから引き継いだ個人事業主様へのハンズオン支援を 10 数回を実施すると共に、幹事社のコミュニティビジネスサポートセンターからの要請で「販路開拓セミナー」を 1 回実施しました。

### **【評価と課題】**

ハンズオン支援に関しましては、ハンズオン支援期間の 5 年を経過したところも多く、支援先の飲食店の廃業もあり、支援回数が減りました。令和8年度は残り 2 名のハンズオン支援のみとなりますので、新しい事業の立上げが喫緊の課題となります。

## **6. 政策研究企画部**

中期計画に掲げる「地域連携を通じた協働・共創の推進」を実現するにあたり、参加団体間で社会課題に対する認識や解決の方向性の共有が十分でないという課題がありました。

このため、まずは自主的な関係性と対話の土壌を育むことを目的として、「ゆるい勉強会」というコンセプトのもと、交流の場の再構築に取り組みました。

具体的には、理事・会員・外部人材が自由に議論できる「木曜サロン」を、月 1 回のペースで開催し、参加者それぞれの関心や現場課題を起点とした対話を重ねることで、多様な主体の接点を生み出し、将来的な協働事業の創出に向けた環境整備を図りました。

### **【評価と課題】**

定期開催を継続した結果、毎回新規参加者を含む概ね 10 名程度が参加し、継続的かつ開かれた交流の場を形成することができました。

参加者からは多様な視点に触れられる点や自由度の高い意見交換の場として評価が高く、「安心して参加できる居場所」としての基盤が構築された点は大きな成果です。

一方で、サロンにおける対話は主として情報交換や関係構築の段階にとどまり、具体的な協働事業の創出に結びつくには至りませんでした。

今後は、参加団体の主体性を引き出しつつ、対話の中から生まれるアイデアや課題を具体的な取組へと展開するための仕組みづくりが必要です。

## **7. 中期計画実施状況**

中期計画は概ね順調に進捗しています。具体的な成果が見え始めている主な施策は、以下の通りです。

- ①地域連携については、松原明氏（協力アカデミー代表）指導による実証実験「協創の道プロジェクト」を主催しました。多様な主体が関わり、互いに利益（相利）を得ながら新しい価値を生む「共創（NPO 3.0）」の実現を目指したもので 15 団体が参加、3 団体が成果発表しました。
- ②団体支援については、資金調達場として八王子いちよう祭り（わくわく広場）、新たな担い手の発掘、交流の場としての地域デビューパーティ、はちおうじ志民塾を開催しています。NPO ハンドブック改訂版を発行、市民、団体などに活用いただいています。また、「地域こども支援助成」「スタートアップ団体への寄付」と資金支援を行いました。
- ③支援センター運営については、A 評価を含め総合 B 評価と高いモニタリング評価をいただい

います。2027年～2031年指定管理者として選定されました。

- ④組織体制の強化については公益財団法人日本非営利組織評価センター(JCNE)「グッドガバナンス認証」を取得しました。また、ガバナンス強化、運営の透明性向上を目的とし理事選挙規定、理事職務規程を改訂しました。業務遂行においては多様性を尊重し、プロセスを共有、自由闊達な意見交換、議論、合意形成を行っておりエンゲージメントの向上が期待されます。

#### 【評価と課題】

- ①「協創の道プロジェクト」で用いられた問題解決フレームワークは、団体の課題と具体的な施策をロジック化する優れたツールです。そこで、フレームワークを学び理解し、実際の場において、団体の課題と施策の構造化を共有して行い、最終的には団体自らが構造化できる知識とスキルを習得できるよう支援します。併せて、このプロセスを通して人財育成を図ります。
- ②企業連携については、まずは同じ土俵に立った関係性をつくることから進めたいと考えています。
- ③「グッドガバナンス認証」は社会的信頼の証です。そのメリットを事業展開に活かすと共に、更に「グッドギビング認証」取得とその活用団体へのステップアップを目指します。  
ほぼ順調に推移している施策がある一方、調査・研究、人財マップの作成、新規事業の開拓については未着手でした。
- ①調査・研究については、支援センターと連携し団体ニーズ調査を行い、データを分析し、八王子版NPO白書(仮)を発行、公開したいと考えています。これは中期計画の見直しなど二次利用できます。
- ②人財マップの作成については、ニーズ、マッチング、開発・運用リソースなどを勘案すると実現難易度が非常に高い施策と言えます。そこで、先ず理事や会員等とNPO団体の交流(含むプロボノ、木曜サロン)など顔の見える関係づくりの機会を増やし潜在的な人財の掘り起こしを進めることから始めたいと考えています。
- ③新規事業の開拓については、交流会、木曜サロンで蒔かれた種から新しい芽が出てくることを期待しています。

## 8. 八王子市学園都市大学(いちょう塾)への講座提供

協議会は毎年「八王子市学園都市大学(いちょう塾)」に無料の公開講座を提供しています。2025年度は以下の講座を提供しました。

- ①2025年6月16日(土) 18:30~20:00 学園都市センター12階第1セミナー室  
講師:横山 泰治 (一般社団法人サステナブルコミュニティ共創機構 代表理事)  
SDGsとまちづくり~SDGsを軸にした持続可能なコミュニティ~
- ②2025年9月8日(月) 19:00~20:30 学園都市センター12階第1セミナー室  
講師:松原 明 (特定非営利活動法人協力アカデミー 代表理事)  
困り事からつながろう~共感・巻き込みが要らない協力の作り方~